

大津のことがもっと好きになる情報誌

広報

おおづ

10

OCTOBER 2023



歌って踊って
思い出残る大津の夏

clozu-up Ozu-jin

クローズアップ 大津人



◀松坂さんの友人たちも一緒に「大人の地蔵小屋」を設置。お地蔵さんをイメージした赤の頭巾とエプロンでおそろいのユニフォーム。

Public relations
OZU TOWN

広報 おおづ 2023 10

発行・編集 大津市 総合政策課
〒869-1292 熊本町地部大津町大字大津 1233 番地
TEL.096(293) 3118 <http://www.town.ozu.kumamoto.jp/>

印刷 株式会社
R20 印刷 株式会社

UD FONT
見やすくて読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています。



まつさか たかし
松坂 孝さん(大津)

一つのこと 全力を注ぎます

大津町字前田町にある商店街で商いをする人で構成される前菜会。代表で創設者の松坂孝さん。地蔵祭ではいろんな出店と「大人の地蔵小屋」でお客を楽しませる。商店街から地蔵祭を盛り上げる思いにクローズアップする。

4年ぶりの地蔵祭で初めて、三畳程の小屋に地蔵と梅の造花などのお供え物を置いて、地蔵小屋体験会を開いた。子どもが主体で行う地蔵小屋だが、地域の中で設置する地域が少ない現状を受け、地蔵小屋の楽しみ方や文化を大人が子どもに伝えたいと企画し、「大人の地蔵小屋」と命名した。

「地蔵小屋は学年が違う子どもたちが同じ場所に集まり、おしゃべりしたり、勉強を教えたりと子どもたちのコミュニケーションの一つです。子どもが集まると大人も集まります。地蔵は、地域の人たちをつなぐ役割があると思います」。小学生のときに地蔵小屋に星空を眺め泊まったり、友たちと遊んだり、松坂さんのたくさんの思い出が詰まっている場所が地蔵小屋である。

日頃から商店街を訪れるお客さんに感謝を伝えたい、商店街をもっと盛り上げたい一心で地蔵祭では歩行者天国の入口、旧国道57号沿いでかき氷や金魚すくいなどの出店をする。「お客さんの笑顔を見るためならなんでもします。かき氷は昔ながらの手動の機械を興味があるお子さんに体験してもらったり、金魚すくいで捕まえた金魚は家でそのまま鑑賞できるように藻入りのペットボトルを渡したり。準備に時間と手間は掛かりますが、祭りに来た人たちの思い出をより濃く残したいという思いが勝ってしまうんです。体が動く間は続けていきたいですね」とお客さんと商店街を一番に考える松坂さん。

こゝの声

大津町に住んでいなかったのに地蔵小屋に入ったことはないのですが、地蔵小屋に集まる子どもたちが学年を超えて仲良くなり、一緒に遊んでいる様子を見るとうらやましく思っていました。松坂さんの話を聞いてふとその時の記憶がよみがえってきました▼幼い頃や高校生の時に遊びに行った地蔵祭。当時、ふと目に留まっていたのが写真を撮っている人でした。まさか自分が大人になって撮る側の人になるとは夢にも思っていませんでした。撮影をする中でお客さんの笑顔がたくさん見られたのは広報の特権だなと感じます。皆さんはどんな夏の思い出を刻みましたか(〇〇)



広報が読める
スマホアプリ

